

事後評価アンケート結果

整理番号	H29 - 1
------	---------

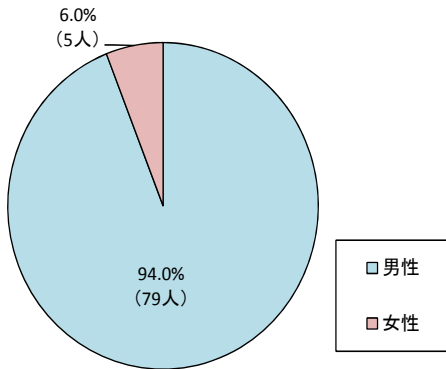
事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区
-----	------------	------	-------

アンケート対象	下風呂漁港の主な利用者である下風呂漁協の組合員(121名)を対象とし、アンケートを実施した。		
配布方法	下風呂漁業協同組合を通じて直接組合員に配布	(配布部数)	121 部
回収方法	漁業協同組合に直接提出により回収	(回収部数)	95 部
回収率	78.5%		
アンケート結果			

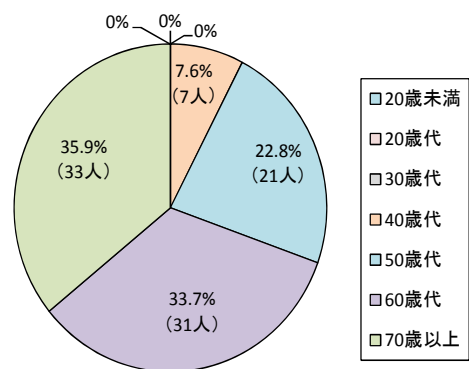
本アンケートは、下風呂漁港の整備事業が完了したことから、施設整備状況の効果を把握するため、調査対象を主な利用者である下風呂漁業協同組合の漁業者に限定して実施している。配布数121部に対して全回答数は95部であり、78%の回収率であった。回答内容に「無回答」が確認されるが概ね有効回答と判断できるため全体評価は妥当と判断される。

1. 回答者の属性

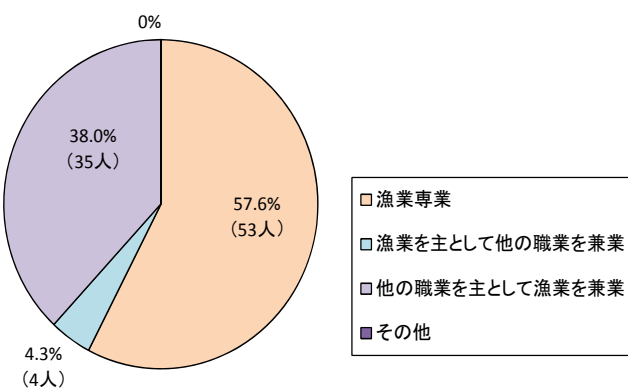
問1【性別】 ※有効回答数:84



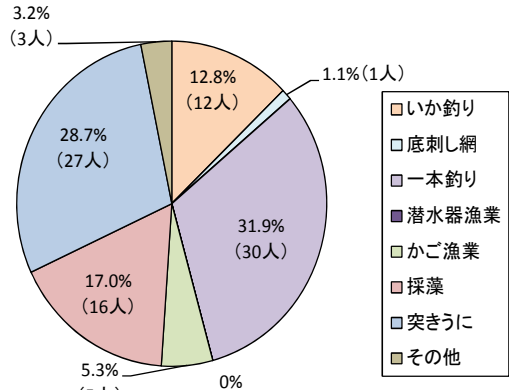
問2【年齢層】 ※有効回答数:92



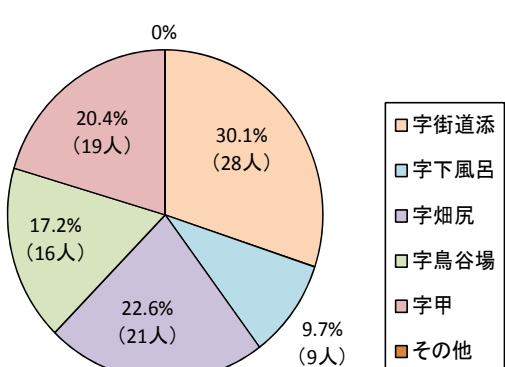
問3-1【漁業就業状況】 ※有効回答数:92



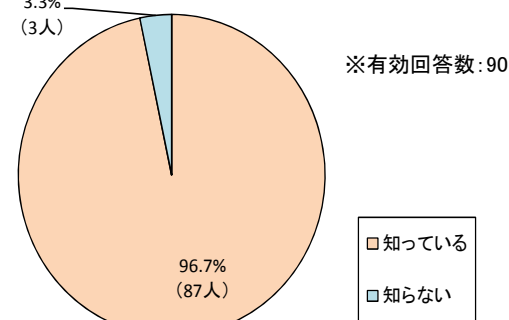
問3-2【営んでいる主な漁業種類】 ※有効回答数:94



問4【お住まい】 ※有効回答数:93



問5【認知度】「漁港利用の安全性向上」・「物揚場・用地不足解消」のために漁港整備事業が実施されたのを知っているか? ※有効回答数:90



事後評価アンケート結果

整理番号 H29 - 1

事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区
-----	------------	------	-------

アンケート結果

問6【利用回数】 ※有効回答数: 93

- ほとんど毎日
- 週に2~3回
- 月に2~3回
- あまり利用していない
- 利用したことがない
- わからない

【利用目的】 ※有効回答数(延べ): 170

- 漁業活動
- 散策・休憩
- 祭り・イベント
- その他

問7【必要度】 ※有効回答数: 93

- 必要であった
- おおむね必要であった
- どちらとも言えない(わからない)
- あまり必要でなかった
- 必要でなかった

問8-1【達成度】静穏度確保による安全性向上 ※有効回答数: 93

- 達成された
- おおむね達成された
- どちらとも言えない(わからない)
- あまり達成されていない
- 達成されていない

問8-2【達成度】物揚場・用地整備による安全性・効率性の向上 ※有効回答数: 93

- 達成された
- おおむね達成された
- どちらとも言えない(わからない)
- あまり達成されていない
- 達成されていない

○設問
地域の基幹産業である漁業にとって、この下風呂漁港の整備事業は必要であったと思いますか？

○具体的な意見

- 必要であった(おおむね必要であった)の理由
 - ・下風呂は漁師の町だから(2件)
 - ・整備により漁業活動がよくなるため(1件)
- 必要でなかった(あまり必要でなかった)理由
 - ・なし

○設問
防波堤や突堤の整備に伴い静穏水域が確保されたことにより、漁港利用の安全性が向上し陸揚げ作業等が効率的に行われるようになったと思いますか？

○具体的な意見

- 達成された(おおむね達成された)の理由
 - ・防波堤の整備により安全性が向上した(1件)
 - ・越波が解消された(1件)
- 達成されていない(あまり達成されていない)理由
 - ・時化のとき越波する場所がある(17件)
 - ・うねりが入り込む(1件)

○設問
物揚場や用地等の整備により、出漁準備作業、漁具補修作業等が安全で効率的に行われるようになったと思いますか？

○具体的な意見

- 達成された(おおむね達成された)の理由
 - ・なし
- 達成されていない(あまり達成されていない)理由
 - ・修繕箇所がある(1件)
 - ・時化のとき越波がある(2件)

事後評価アンケート結果

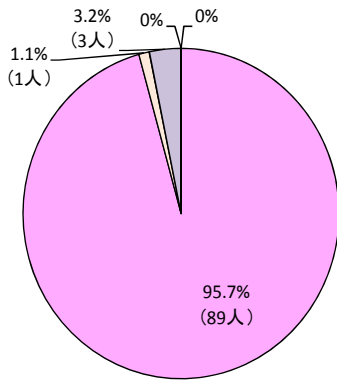
整理番号 H29 - 1

事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区
-----	------------	------	-------

アンケート結果

問9【管理状況】

※有効回答数:93



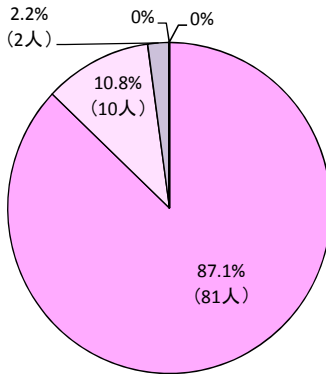
- 適切
- おおむね適切
- どちらとも言えない(わからない)
- あまり適切でない
- 適切でない

○設問
この事業で整備した防波堤や物揚場、用地などの漁港施設は青森県が管理しておりますが、管理は適切に行われていると思いますか？

- 具体的な意見
- 適切(おおむね適切)の理由
 - ・なし
 - 適切でない(あまり適切でない)理由
 - ・なし

問10【環境変化】

※有効回答数:93



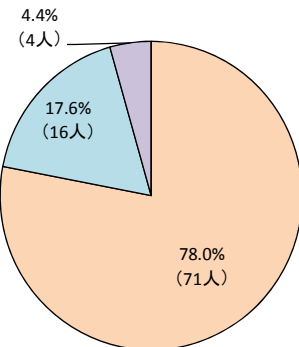
- 良くなった
- やや良くなった
- どちらとも言えない(わからない)
- やや悪くなった
- 悪くなった

○設問
この事業の実施により、下風呂漁港周辺の環境の状況は、事業実施前と比べてどう変化したと思いますか？

- 具体的な意見
- 良くなった(やや良くなった)の理由
 - ・なし
 - 悪くなった(やや悪くなった)理由
 - ・なし

問11【改善点】

※有効回答数:91



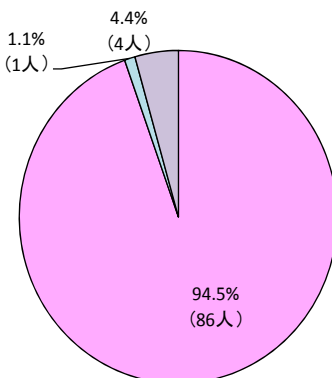
- 改善点がある
- 改善点はない
- どちらとも言えない(わからない)

○設問
本事業の改善点や意見、ご要望等ございましたら、お聞かせ下さい。

- 具体的な意見
- 「改善点がある」の内容
 - ・台風や時化のとき越波する箇所(6件)
 - ・うねりの発生を改善してほしい(1件)

問12-1【その他効果】効果の有無

※有効回答数:91



- 効果があった
- 効果はなかった
- どちらとも言えない(わからない)

○設問
この事業により、「事業目的」以外の効果があがっているとすれば、それは何かをお聞かせ下さい。

- 具体的な意見
- 「効果があった」の内容
 - ・なし
 - 「どちらとも言えない」の内容
 - ・まだ改善が必要(1件)

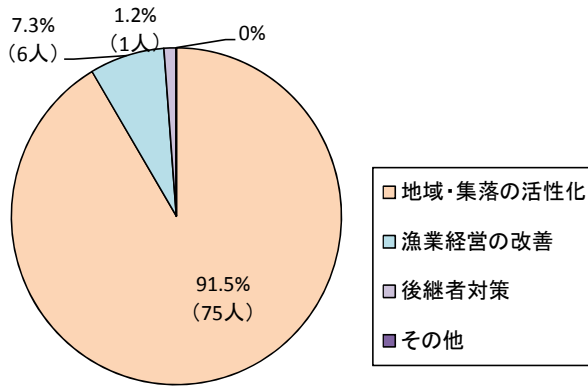
事後評価アンケート結果

整理番号	H29 - 1
------	---------

事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区
-----	------------	------	-------

アンケート結果

問12-2【その他効果】効果があったと思われる項目 ※有効回答数:82



問13【その他の意見】

○設問

アンケート対象事業に限らず、公共事業についてご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせ下さい。

○具体的な意見

・沖防波堤の修繕が必要(1件)

(別紙)

事後評価箇所状況写真

(1/3)

整理番号 H29 - 1

事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区
-----	------------	------	-------

下風呂漁港 空中写真

(平成23年11月撮影)



下風呂漁港 港内全景(東側)

(平成29年1月撮影)



下風呂漁港 港内全景(西側)

(平成29年1月撮影)



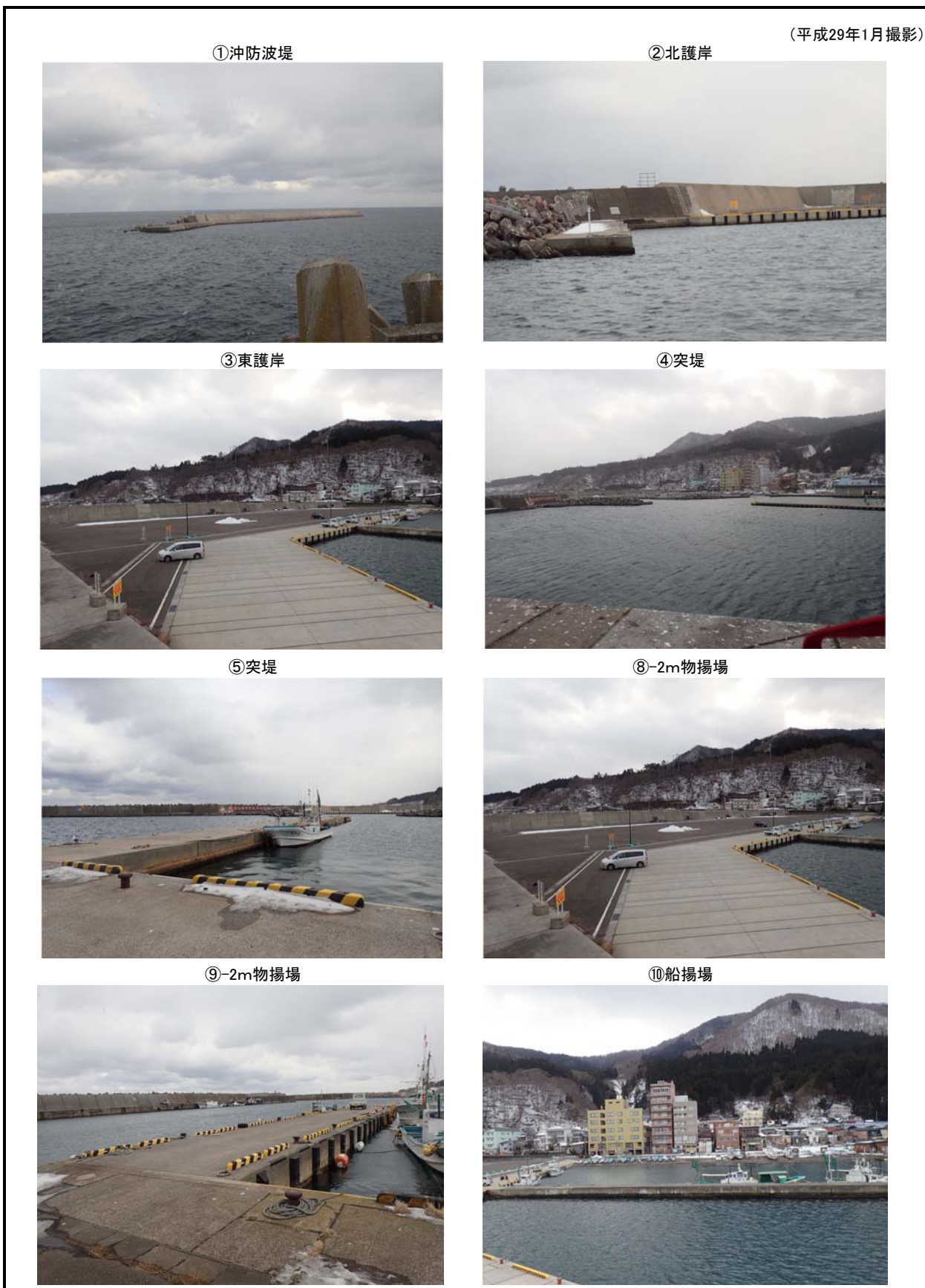
(別紙)

事後評価箇所状況写真

(2/3)

整理番号 H29 - 1

事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区
-----	------------	------	-------



(別紙)

事後評価箇所状況写真

(3/3)

		整理番号	H29 - 1
事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区

港内の利用状況

(平成28年12月撮影)



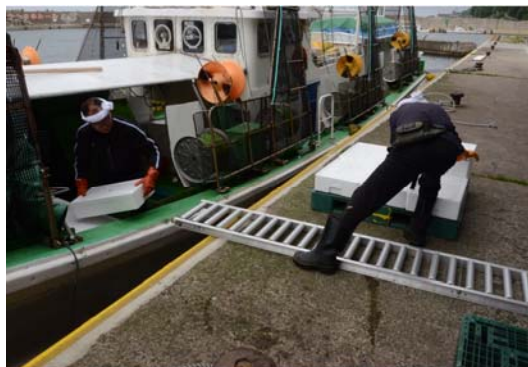
物揚場・背後用地の利用状況

(平成28年12月撮影)



荷捌き作業および保管・積込搬出状況

(平成28年6月撮影)



費用対効果分析説明資料

整理番号 H29 - 1

事業名	水産生産基盤整備事業	箇所名等	下風呂地区
-----	------------	------	-------

【費用対効果の算定内容】

1. 費用対効果の算定根拠

算定の考え方及び算定手法は、『水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン(平成29年4月改訂 水産庁漁港漁場整備部)』(以下、ガイドライン)を参照した。

費用対効果の算定には、整備に係る総費用及び維持管理費について、現在価値化したものを費用(C)、下風呂漁港の利用効果について貨幣化したものを便益(B)として評価するものである。

2. 算定の前提条件

(1) 評価基準年度:平成29年度

(2) 評価期間:事業期間+50年間(総合耐用年数により設定)

(3) 費用及び便益の現在価値:投資額、耐用年数期間内に発生する年間便益を、現在価値化(社会的割引率4%)して用いる。

また、費用便益分析で扱う費用は、漁港デフレータ^{※1)}を乗じ、計上している。

※1) 漁港デフレータ(2016漁港漁場漁村ポケットブック)

3. 総費用(C)の算定

(金額単位:千円)

項目	単純合計	基準年における現在価値	備考
①事業費	2,010,200	3,554,863	事業期間H14~H24
②維持管理費	50,000	27,820	
合計	2,060,200	3,582,683	

4. 総便益(B)の算定

当事業の便益は、漁業者および漁業関係者が漁港施設を利用したときの便益を、費用便益積上法によって算定している。

なお、費用便益積上法では、地元漁業関係者等へのヒアリングにより便益のシナリオ及び原単位を調査・確認した上で、ガイドラインの算定手法に基づき便益額の算定を行った。

なお、当事業は平成24年に完了しているため、供用開始は平成25年から便益を計上している。

(金額単位:千円)

項目	単純合計	基準年における現在価値	備考
①水産物生産コストの削減効果	4,344,100	2,390,988	86,882 千円/年
②漁業就業者の労働環境改善効果	3,146,250	1,731,692	62,925 千円/年
合計	7,490,350	4,122,680	

【費用対効果分析の結果】

$$B(\text{総便益})/C(\text{総費用}) = 4,122,680 \text{ (千円)} / 3,582,683 \text{ (千円)} = 1.15$$

公共事業再評価調書

担当部課名	農林水産部 水産局 漁港漁場整備課	電話番号	017 - 734 - 9614
		E-MAIL	gyoko@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 (5 年)	再評価後 (年)	その他 ()
---------	-----	--------------	------------	---------

1 事業概要

事業種別	水産基盤整備事業	事業主体	県	市町村	その他 ()																																																		
事業名	広域漁港整備事業	地区名等	下風呂	市町村名	風間浦村																																																		
事業方法	国庫補助	県単独	財源・負担区分	国 50 %	県 40 %	市町村 10 %	その他 0 %																																																
採択年度	平成 14 年度 (用地着手 平成 - 年度 / 工事着手 平成 14 年度)																																																						
終了予定年度	平成 21 年度 (平成 - 年 - 月 工期変更 当初計画時 平成 - 年度)																																																						
事業目的	本地区は、低気圧や台風による波浪により航路及び港内の静穏度が悪いうえ、慢性的な係船岸不足のため、陸揚作業や操船に長時間要すほか、二重三重係船する等効率性の低い漁業形態となっている。この状況を改善するため、外郭施設及び係留施設を整備し、漁業活動の効率化、軽労化を推進するとともに、水産物の安定供給と水産業の維持、振興を図るものである。																																																						
主要内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>当初計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外郭施設</td> <td>360 m</td> <td>360 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>水域施設</td> <td>6,400 m</td> <td>6,400 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>係留施設</td> <td>165 m</td> <td>165 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>輸送施設</td> <td>150 m</td> <td>150 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>用 地</td> <td>6,280 m</td> <td>6,280 m</td> <td>0 m</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業計画については、当初計画時と比較して変更はない。</p>							区 分	当初計画時	再評価時	増 減	外郭施設	360 m	360 m	0 m	水域施設	6,400 m	6,400 m	0 m	係留施設	165 m	165 m	0 m	輸送施設	150 m	150 m	0 m	用 地	6,280 m	6,280 m	0 m																								
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																																																				
外郭施設	360 m	360 m	0 m																																																				
水域施設	6,400 m	6,400 m	0 m																																																				
係留施設	165 m	165 m	0 m																																																				
輸送施設	150 m	150 m	0 m																																																				
用 地	6,280 m	6,280 m	0 m																																																				
事業費	<p>当初計画時総事業費 2,200 百万円 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>~15年度</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>小 計</th> <th>19年度~</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td>600</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>1,500</td> <td>700</td> <td>2,200</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> </tr> <tr> <td>年 月変更</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>500</td> <td>200</td> <td>150</td> <td>200</td> <td>1,050</td> <td>1,150</td> <td>2,200</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> </tr> </tbody> </table>								~15年度	16年度	17年度	18年度	小 計	19年度~	合 計	計 画	600	300	300	300	1,500	700	2,200	(うち用地費)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	年 月変更								実 績	500	200	150	200	1,050	1,150	2,200	(うち用地費)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	~15年度	16年度	17年度	18年度	小 計	19年度~	合 計																																																
計 画	600	300	300	300	1,500	700	2,200																																																
(うち用地費)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)																																																
年 月変更																																																							
実 績	500	200	150	200	1,050	1,150	2,200																																																
(うち用地費)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)																																																

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	(うち用地費)		47.7 % [/]	70.0 % [/]
			(- %) [/]	(- %) [/]
	主要工種 毎割合 (事業費)	外郭施設 (1,661百万円)	62.9 %	70.0 %
		水域施設 (243百万円)	0.0 %	- %
		係留施設 (210百万円)	1.8 %	73.6 %
輸送施設 (17百万円)		0.0 %	- %	
用 地 (69百万円)		0.0 %	- %	
説 明	平成14年度から工事に着手し、年次計画に対する進捗率は70.0%であるが、最も施工に時間を要する北護岸が平成18年度で完了することから、今後は東護岸及び係留施設を中心に重点整備が可能であり順調な進捗が図られることから、計画どおり平成21年度完成の予定である。			
問題点・ 解決見込み	阻害要因は特にはない。			
事業効果 発現状況	沖防波堤の延伸に伴い、港内静穏度が向上し、操船時間が短縮される等の効果が発現しているほか、物揚場完成により準備時間短縮効果が発現している。			

(2) 社会経済情勢の変化

(A)・B・C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>[全国の評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物の安定供給への貢献 ・沿岸域の環境保全・創造の推進 ・漁村の総合的な振興 	<p>[県内の評価]</p> <p>漁港と漁場を水産資源の増殖から漁獲、陸揚げ、流通、加工までの一貫した水産物供給システムの基盤としてとらえ、総合的かつ計画的に整備して進める。</p>
	当地区における評価	<p>当該地区は、イカ釣り漁業を中心とした沖合・沿岸漁業が盛んであり地域経済を支える重要な役割を果たしている。しかし、近年漁業従事者の高齢化など水産業を取り巻く情勢は非常に厳しい状況にある。このことから安全で女性や高齢者にやさしく、後継者支援につながる就労環境の向上を目指した漁港漁場整備が強く望まれており、当地区が今後も水産物の供給に重要な役割を果たしていくためにも、漁業従事者が安全で効率的な漁業活動を行える環境づくりに努める必要がある。</p>	
必要性	<p>本県は全国有数の水産県であり、水産資源の持続的利用と水産物の安定供給に向け、生産基盤である漁港の整備は重要かつ継続的な課題である。</p> <p>本地区は、外郭施設の整備不足により、航路・港内静穏度が非常に悪く、また係船岸が不足していることから、漁業準備作業時間に長時間を要しており、就労環境が非効率である。</p> <p>このような状況を改善するために、外郭施設、係留施設、用地等の整備を進め、漁業活動の効率化・軽労化・安全性の向上を図ることは、水産資源の持続的利用及び水産物の安定供給の面から必要性が高い。</p>		(a)・b
適時性	<p>風間浦村は、「風間浦村政要覧」において、「つくり育てる漁業の強化・地場産業の特性を活かした恵み豊かな村づくり」を主要な施策の一つとして位置づけており、漁業経営の安定化に取り組んでおり、毎年開催している「海峽フロンティアフェスティバル」等イベントを通じて、地元水産物をPRするとともに観光との連携を強く推進している。このような村の施策と連携して地域の活性化を推し進めるため、漁港施設等水産基盤施設の整備が重要な役割を担っている。</p>		(a)・b
地元の推進体制等	<p>国(水産庁長官)への計画承認申請にあたり、風間浦村、下風呂漁業協同組合の要望を基に策定した計画について、風間浦村の同意を得たうえで進んでおり、また、毎年度、整備実績及び予定等の情報を地元と共有化しており、地元の推進体制は十分である。</p>		(a)・b
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・資源管理型漁業、つくり育てる漁業への支援 ・水産物流通の効率化と一体化した品質管理 ・安全で快適な漁業地域の形成 ・生産労働効率化、近代化、担い手支援 		

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A)・B・C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 漁港施設	1,886 百万円	2,133 百万円	247 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	1,886 百万円	2,133 百万円	247 百万円
便益項目 (B)	(1) 水産物生産コストの削減効果	1,094 百万円	1,683 百万円	589 百万円
	(2) 漁業就業者の労働環境改善効果	1,756 百万円	1,839 百万円	83 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	2,850 百万円	3,522 百万円	672 百万円
B / C		1.51	1.65	
<p>【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等)</p> <p>『水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン平成14年3月-水産庁漁港漁場整備部-』</p> <p>【費用対効果分析における特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港内静穏度向上により陸揚げ作業時間の短縮効果が増加したことがB/C値変動の主な理由である。 				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A) · B · C
コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 実施断面検討時には、経済性を考慮した断面比較を行い、コスト削減に取り組んでいる。	(a) · b
代替案	【代替案の検討状況】 地形条件や施工条件を勘案したそれぞれの工法で施設配置を決定しており、現段階での代替案の可能性は無い。	(a) · b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A) · B · C			
住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 計画策定・事業実施に当っては、受益者となる地元の漁業者からのヒアリングを実施し、具体的なニーズの把握に努めている。また、地元漁業関係者、村および事業主体である県との事業執行のための漁業調整を完了している。	【住民ニーズ・意見】 ・航路静穏度の向上 ・港内静穏度の向上 ・係船岸不足の解消 ・作業用地不足の解消	(a) · b		
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>地域区分</td> <td>S6b</td> </tr> </table> (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)対応内容 藻場、えさ場や生物相の生息環境の場への影響を避けるため、従来から使用されている材質のものを使用している。	地域区分	S6b	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)対応内容 ・埋立材には現場浚渫土砂を再利用し、出来るだけ同地のものを使用している。 ・周辺になじんだ既設ブロックと同型のものを使用している。 ・土砂等の運搬搬入に際し、運搬経路を施工計画書でチェックし、交通公害等に配慮している。 ・土砂採取場所のチェックをし、周辺地域の土壌の適切な保全に努めている。 ・コンクリート殻は出来るだけ現場再利用し、アスファルト殻は再生プラントに搬入している。	(a) · b
地域区分	S6b				
地域の立地特性	過疎、辺地、振興山村、農業振興、半島振興				

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	本事業により、安全で快適な漁業地域の形成、生産労働効率化・近代化・担い手支援の効果が期待できる。 また、本事業に対する地元要望や必要性も高く、費用対効果についてもB/C=1.65と経済的だと評価できることから、本事業の必要性及びその効果は高いと判断される。			
備考				

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	継続	計画変更 中止 休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見		
評価理由		